

SUP-GS/GTP II V4

online SUpport Package -
Global Server / General Tool Program

汎用ツールプログラムパッケージ

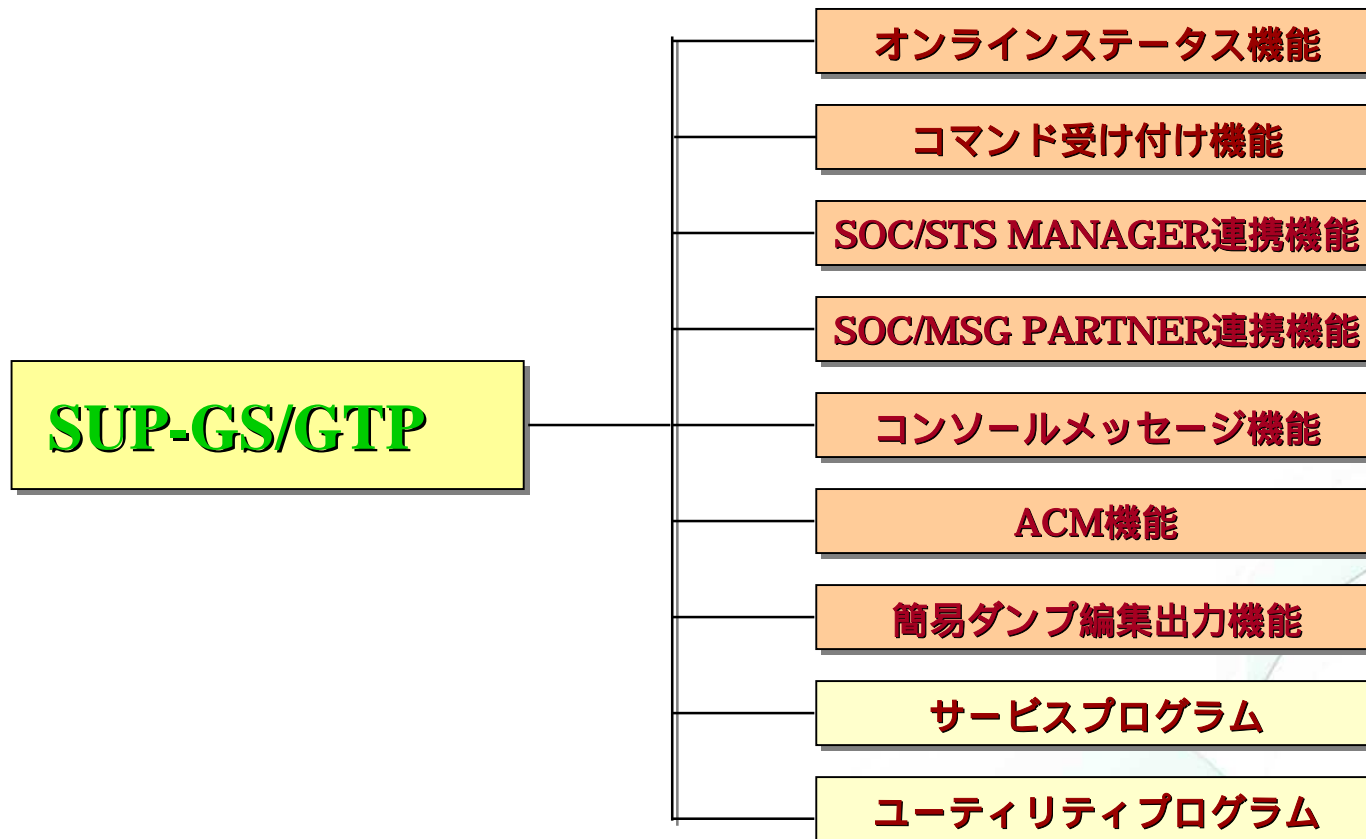
株式会社富士通アドバンスソリューションズ

目次

- 1 . SUP-GS/GTP の提供するコンポーネント
- 2 . オンラインステータス機能
- 3 . コマンド受け付け機能
- 4 . コンソールメッセージ機能
- 5 . SOC/STS MANAGER連携機能
- 6 . SOC/MSG PARTNER連携機能
- 7 . ACM機能
- 8 . 簡易ダンプ編集出力機能
- 9 . サービスプログラム
- 10 . ユーティリティプログラム

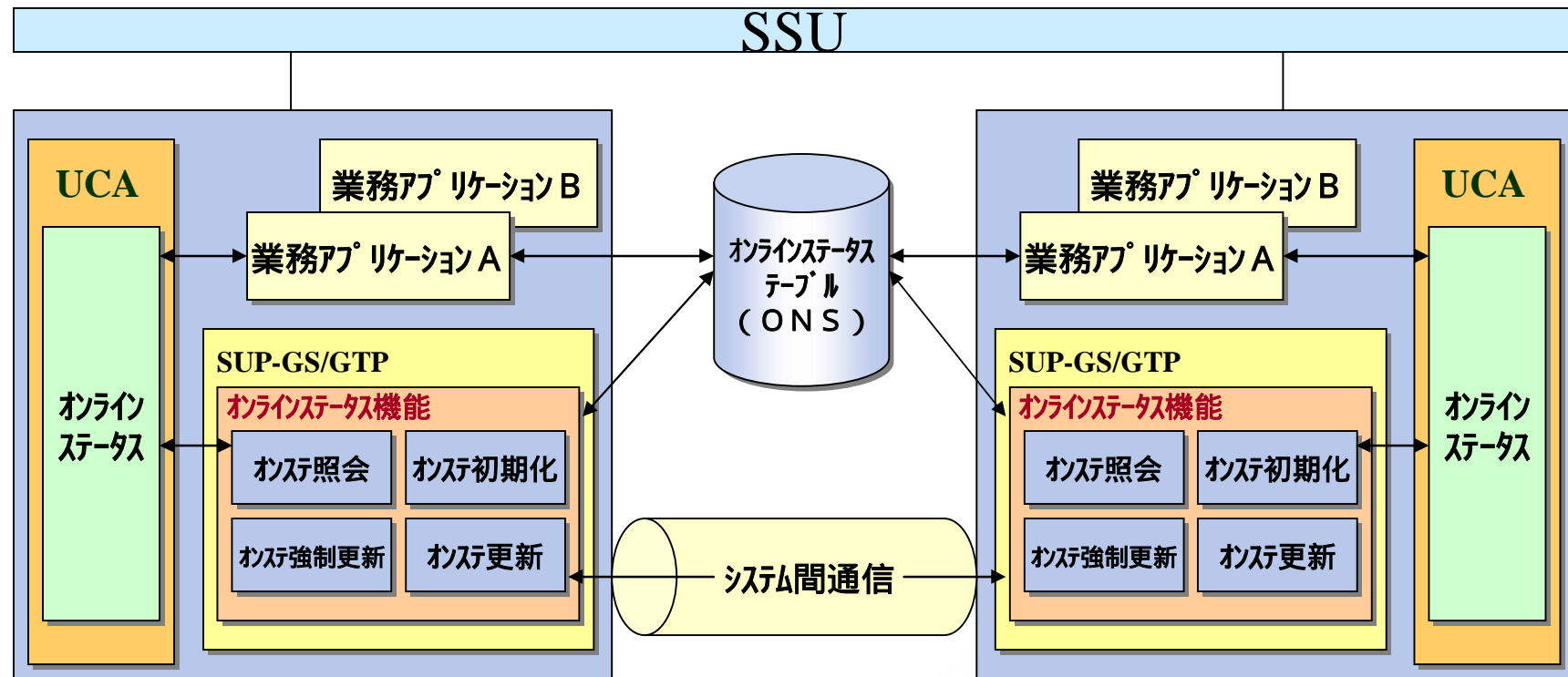
1. SUP-GS/GTP の提供するコンポーネント

SUP-GS/GTP は、各種の「機能」や「サービスプログラム」を集めたプログラムプロダクトを提供します。



2. オンラインステータス機能

SSU内でオンラインステータスの共有を行うことができます。

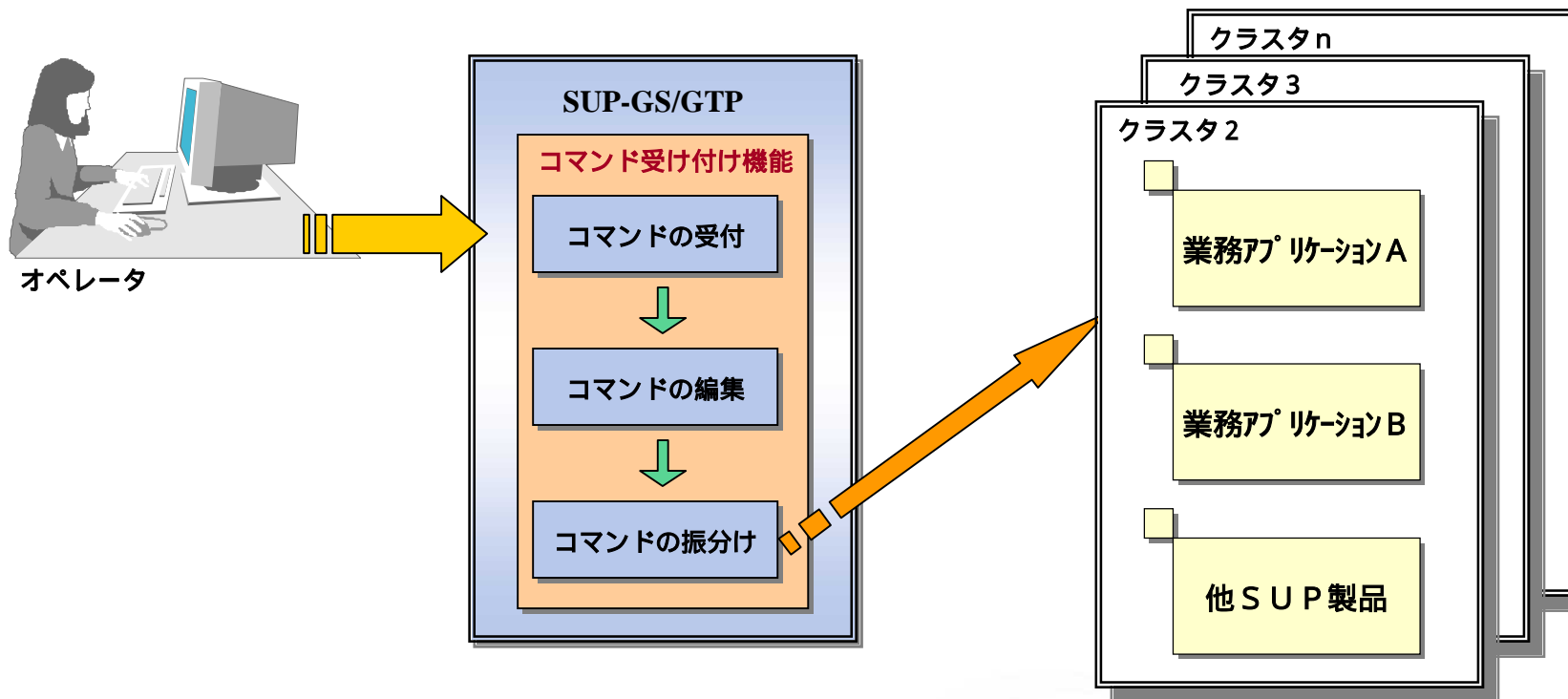


効果

- ・業務アプリケーションがオンステを参照するときは、メモリ常駐テーブルを利用するため、トランザクションのマルチ処理が可能になります。

3. コマンド受け付け機能

MODIFYコマンドを任意の業務アプリケーションへ振り分けます。他クラスタへの振り分けも可能なため、コマンド受け付けを集中管理できます。

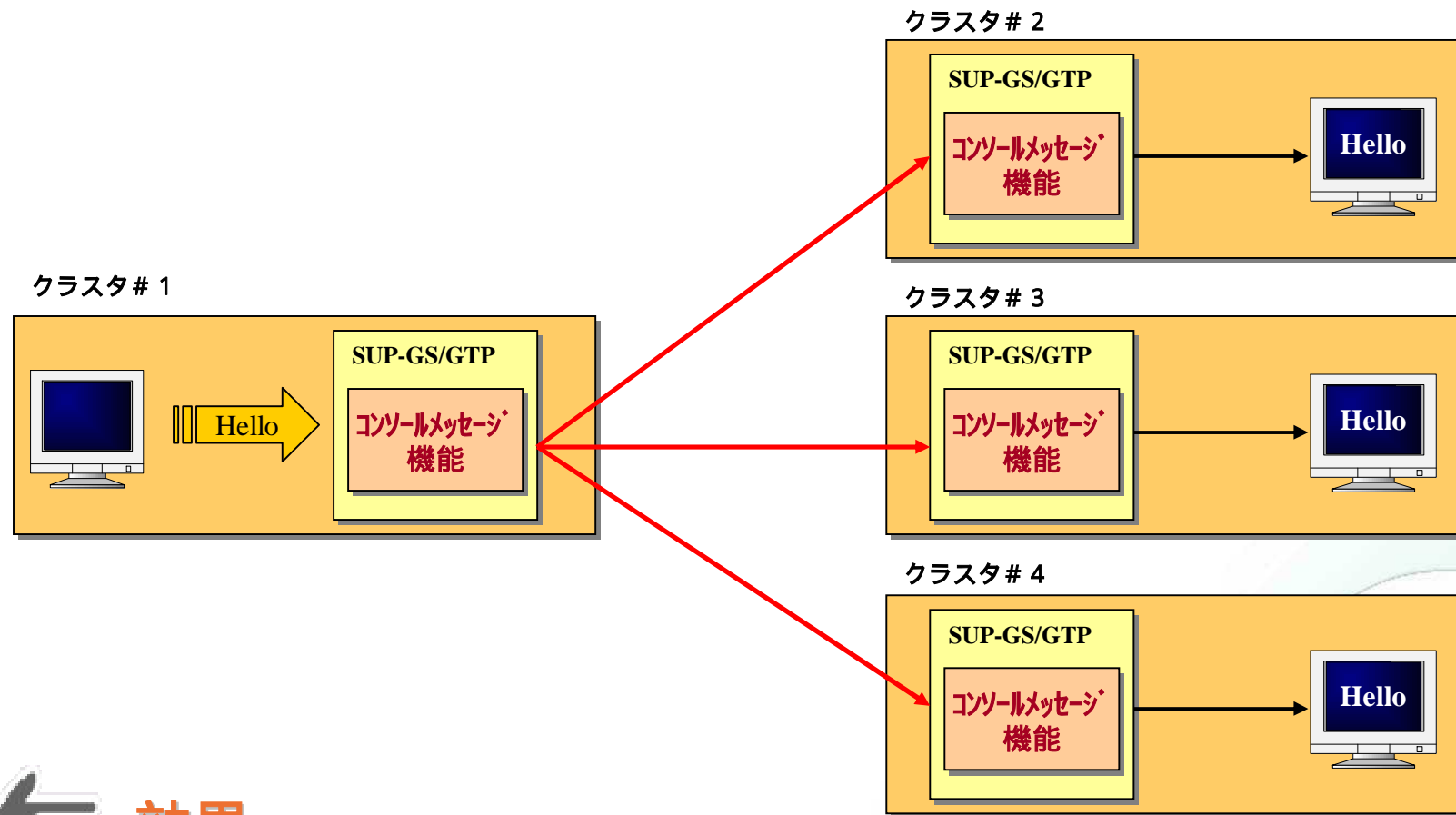


効果

- ・ MODIFYコマンドの受け付けを一手に引き受け、業務アプリケーションプログラムへ振り分けることができます。
- ・ MODIFYコマンドを編集して振り分けることができます。
- ・ 他クラスタへのコマンド振り分けが可能です。

4. コンソールメッセージ機能

SCMP間で同期を取ったコンソールメッセージ出力を行うことができます。

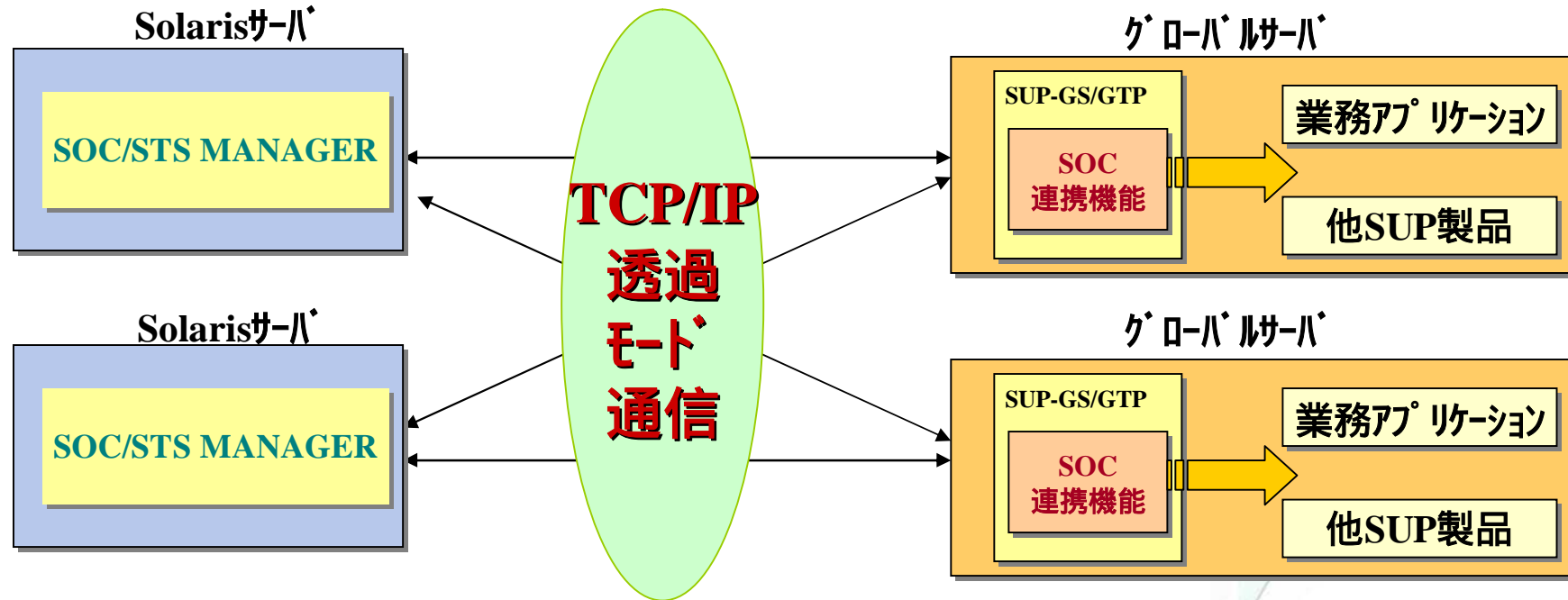


効果

- ・ 1 オペレーションで全クラスタや特定クラスタに同一コンソールメッセージ出力が可能になります。クラスタのグループ分けや各クラスタでメッセージ編集，出力抑止が可能です。
- ・ 任意のコンソールメッセージをCALLインタフェースで出力することが可能です。

5 . SOC/STS MANAGER連携機能

「SOC/STS MANAGER」と連携することで、Solarisサーバとグローバルサーバ間のメッセージの中継を行うことができます。

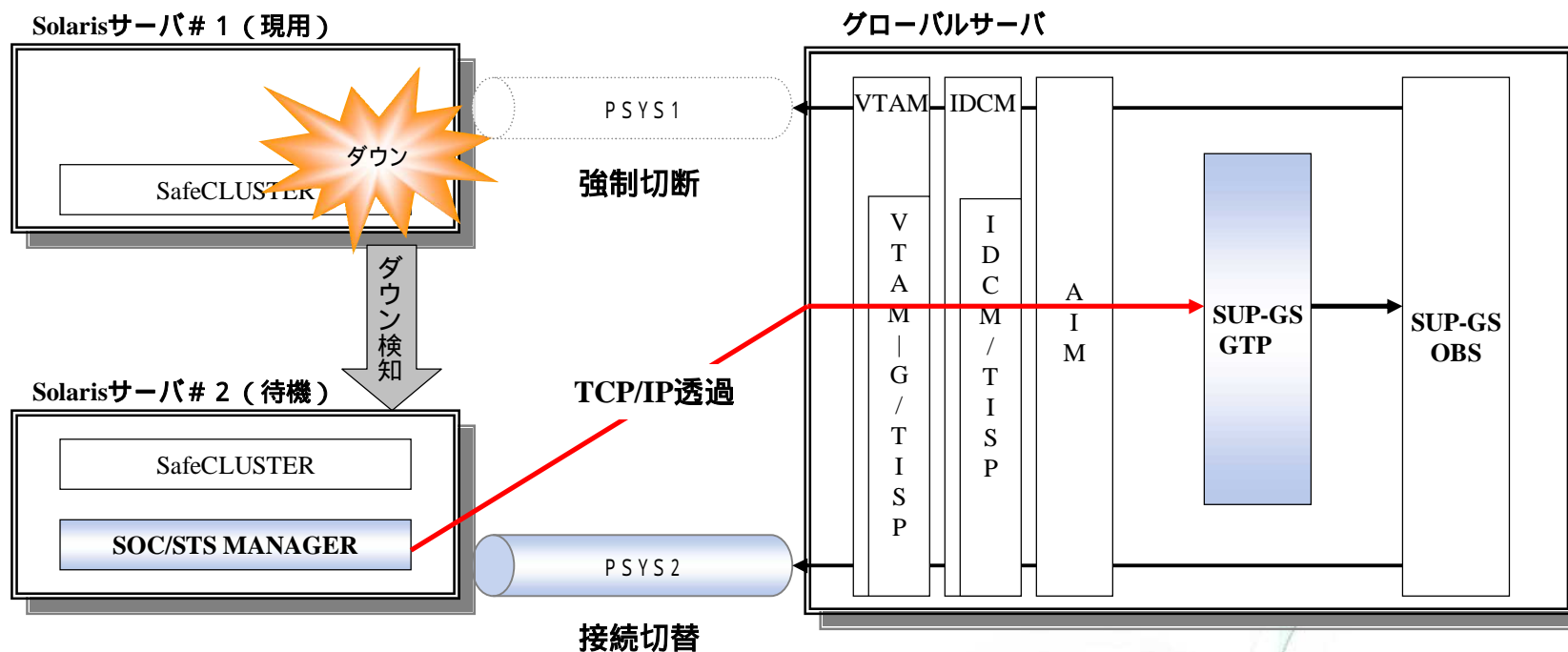


効果

- Solarisサーバ上の業務アプリケーションに対して、コマンドを発行することができます。
- グローバルサーバ上の業務アプリケーションに対して、Solarisサーバ起動 / ダウン通知を行うことができます。
- SUP-GS/OBSと連携しSolarisサーバ間のDPCF通信パス強制切断や切り換えを行うことができます。

Solarisサーバダウン時のDPCF通信パスの切り替え

Solarisサーバダウン時は、SOC/STS MANAGERからのダウン通知を契機にSUP-GS/OBSと連携してDPCF通信パスの切り替えを行うことができます。

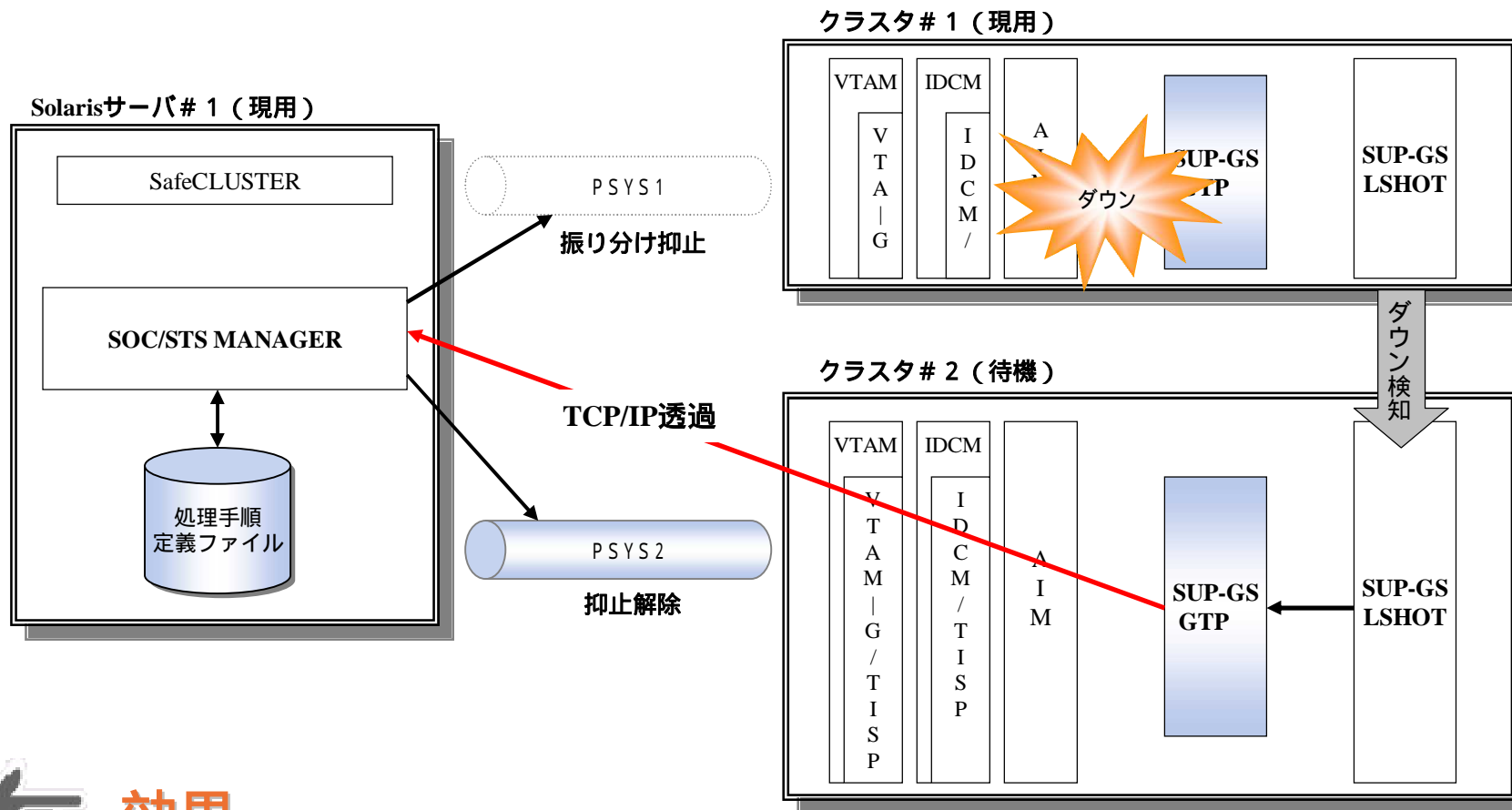


効果

- Solarisサーバダウン時のDPCF通信パスの自動切り替えが可能です。
- グローバルサーバ上の業務アプリケーションに対して、Solarisサーバダウン通知を行うことができます。

グローバルサーバダウン時のDPCF通信パスの切り替え

グローバルサーバダウン時は、SUP-GS/LSHOTからのコマンドを契機にSOC/STS MANAGERと連携してDPCF通信パスの切り替えを行うことができます。

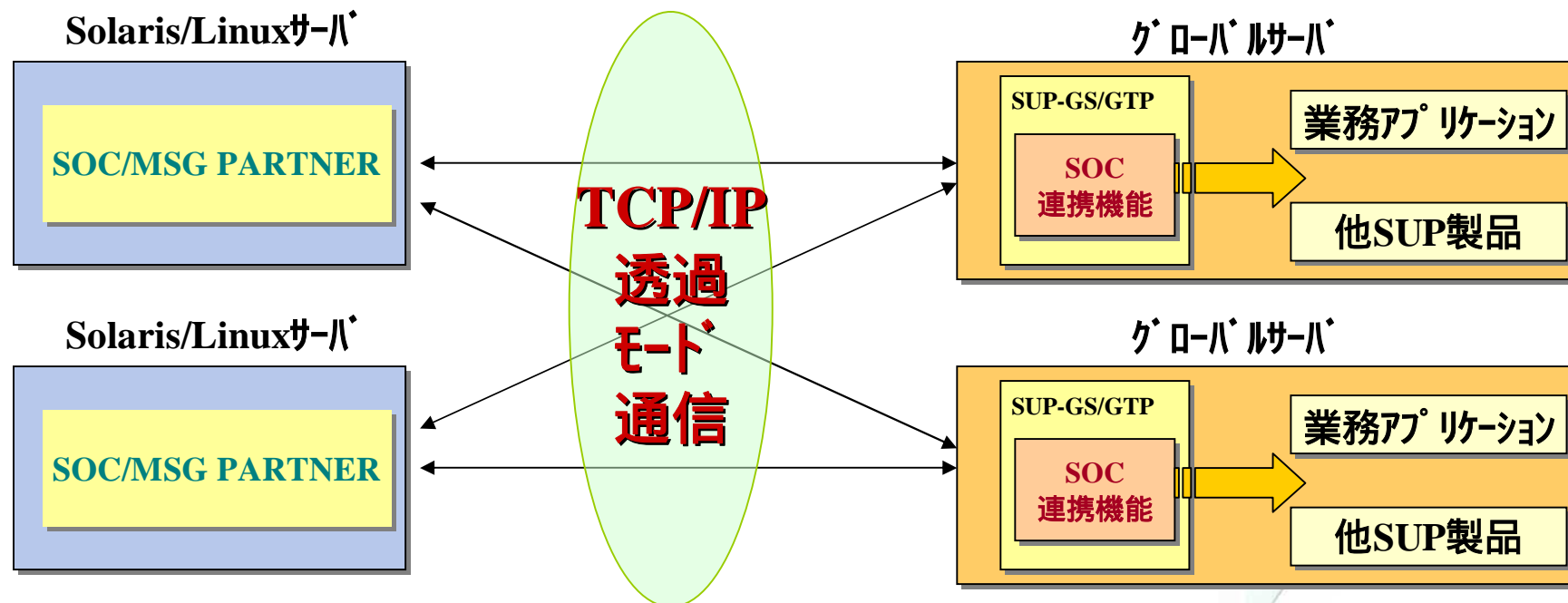


効果

- ・グローバルサーバダウン時のDPCF通信パスの振り分け抑止 / 抑止解除の自動切り替えが可能です。
- ・グローバルサーバからSolarisサーバのコマンドの起動契機を与えることが可能です。

6. SOC/MSG PARTNER連携機能

「SOC/MSG PARTNER」と連携することで、Solaris/Linuxサーバとグローバルサーバ間のメッセージの中継を行うことができます。

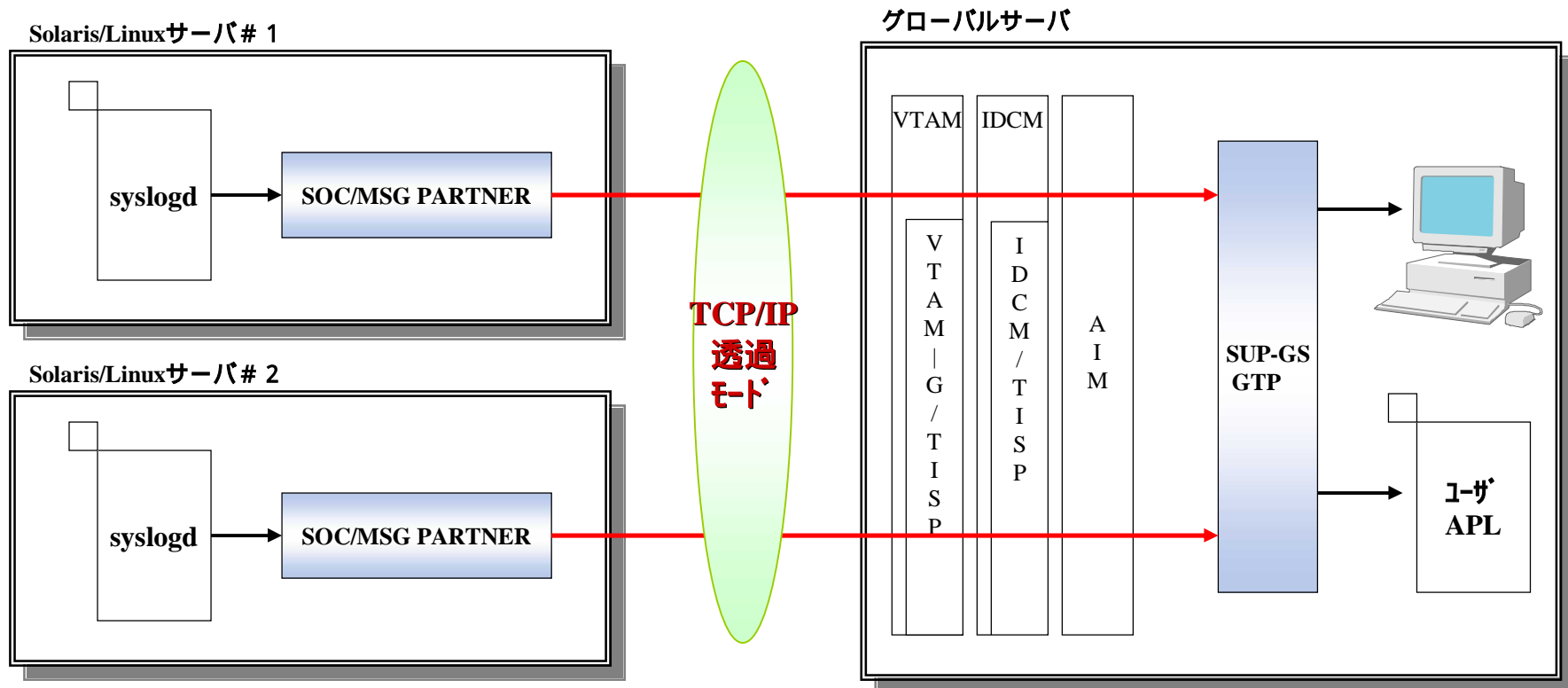


効果

- Solaris/Linuxサーバのsyslogメッセージをグローバルサーバ上の業務APLに送信 (DC / OCS) およびコンソールに表示します。
- Solaris/Linuxサーバ上の業務アプリケーションに対して、コマンドを発行することができます。
- グローバルサーバ上からSolaris/Linuxサーバのsyslogにメッセージ出力することができます。

メッセージ受信機能

Solaris/Linuxサーバのシステムログ (syslog) に表示されたメッセージを「SOC/MSG PARTNER」と連携することで、グローバルサーバのコンソールに表示することができます。

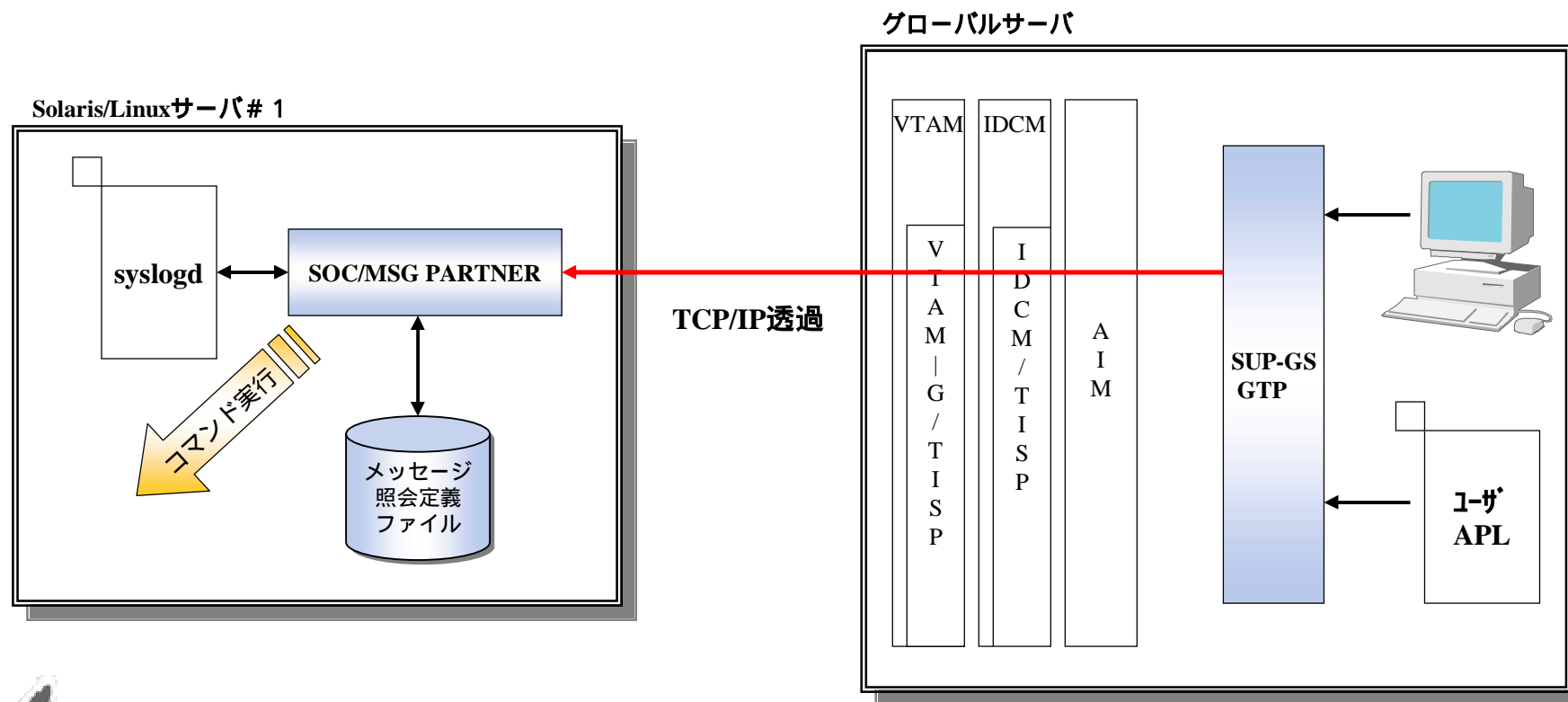


効果

- Solaris/Linuxサーバの状態やジョブ起動メッセージをグローバルサーバで監視することが可能です。
- Solaris/Linuxサーバのメッセージを起動契機としてOPや業務APLに処理を与えることができます。

コマンド連携機能（Solaris/Linuxサーバ編）

グローバルサーバからSolaris/Linuxサーバのコマンド起動契機を与えることが可能です。

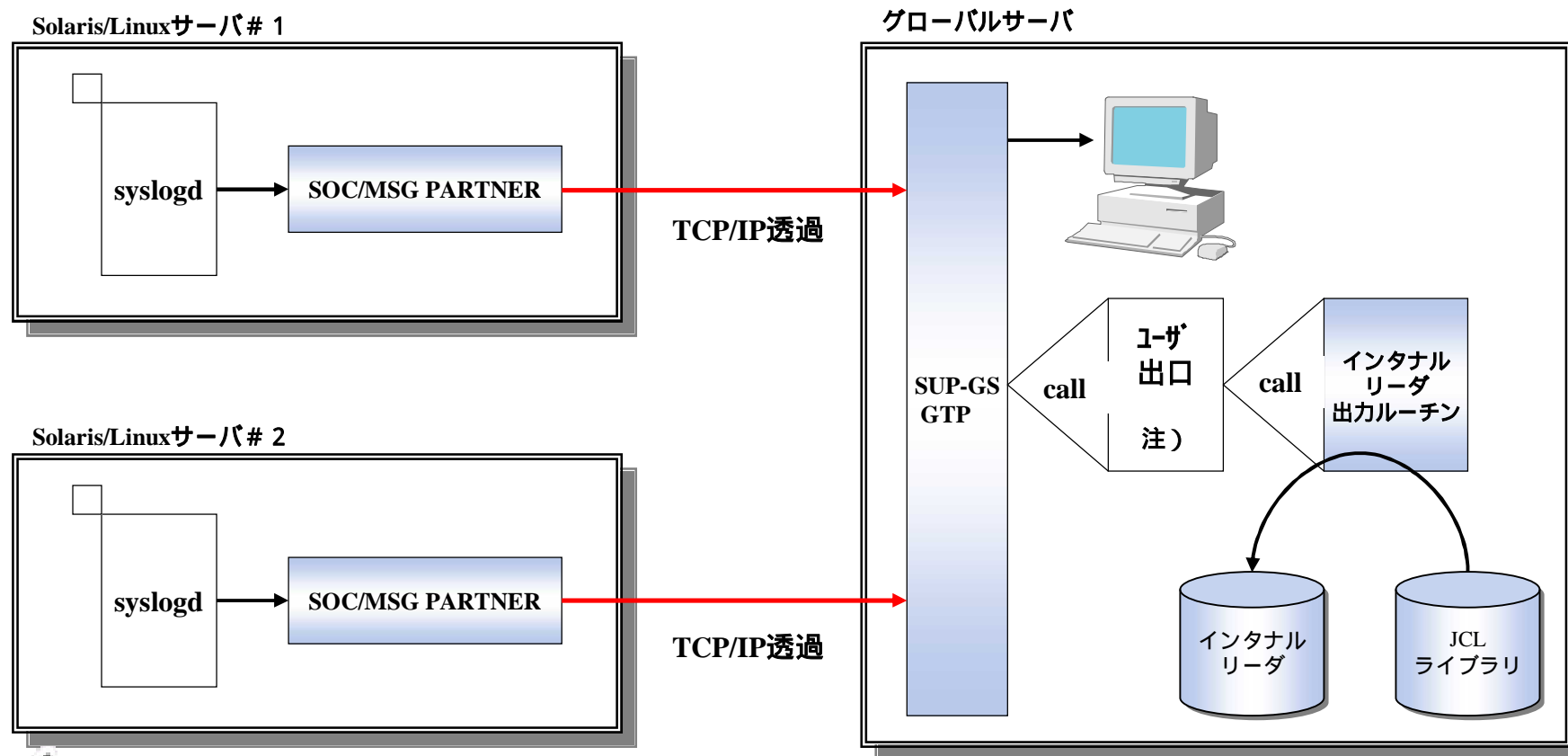


効果

- Solaris/Linuxサーバのコマンド起動契機をグローバルサーバから与える（MODIFYコマンド、ユーザAPLからの電文発行）ことが可能です。
- 複数のSolaris/Linuxサーバを接続した場合、Solaris/Linuxサーバに対するコマンド振り分けが可能です。

コマンド連携機能（グローバルサーバ編）

Solaris/Linuxサーバからのメッセージを契機としてグローバルサーバのジョブ起動（JCL実行）を行うことが可能です。



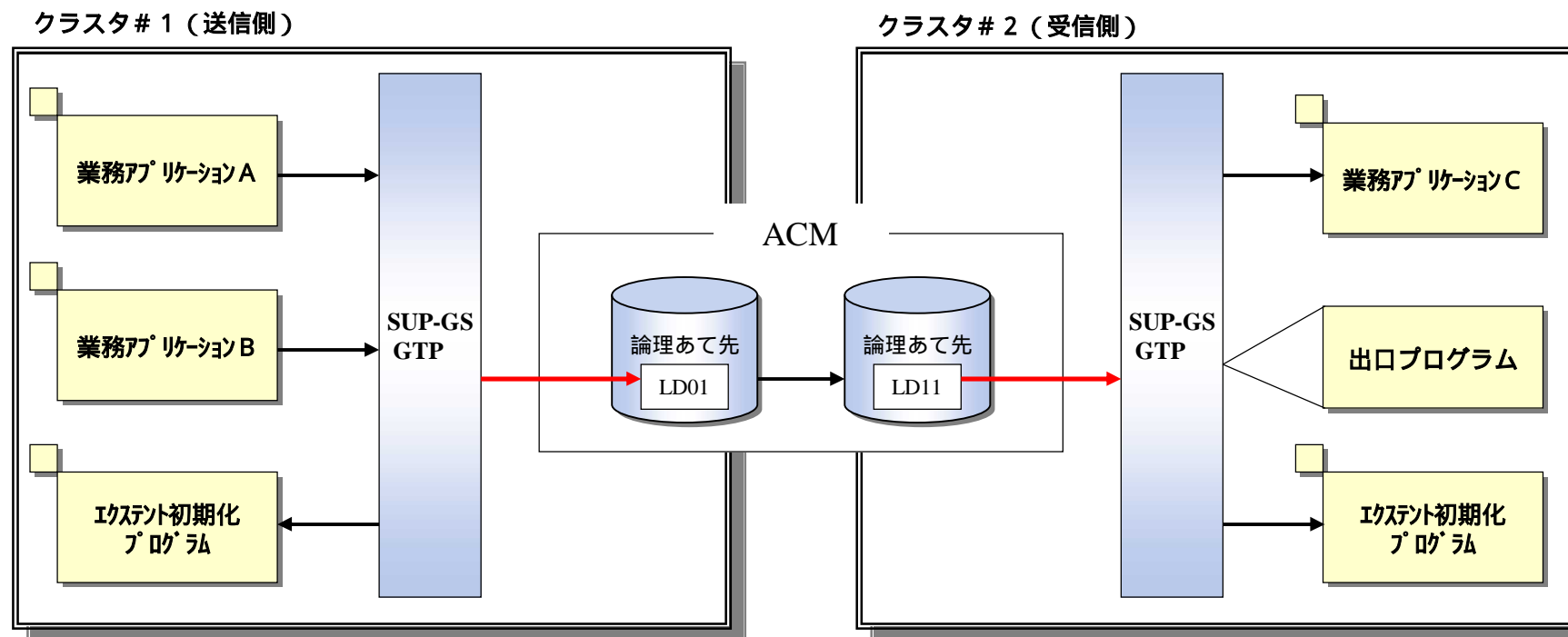
効果

- Solaris/Linuxサーバからの特定メッセージを契機にしてグローバルサーバのジョブ起動が可能です。

注) ユーザ出口の作成が必要

7. ACM機能

ACMファイルへの書き込み、読み出しの中継機能を提供しています。この機能を適用することでACMファイルからのメッセージを業務アプリケーションで容易に受け取ることが出来ます。
(CALLインタフェース、応用プログラム間通信を用意)

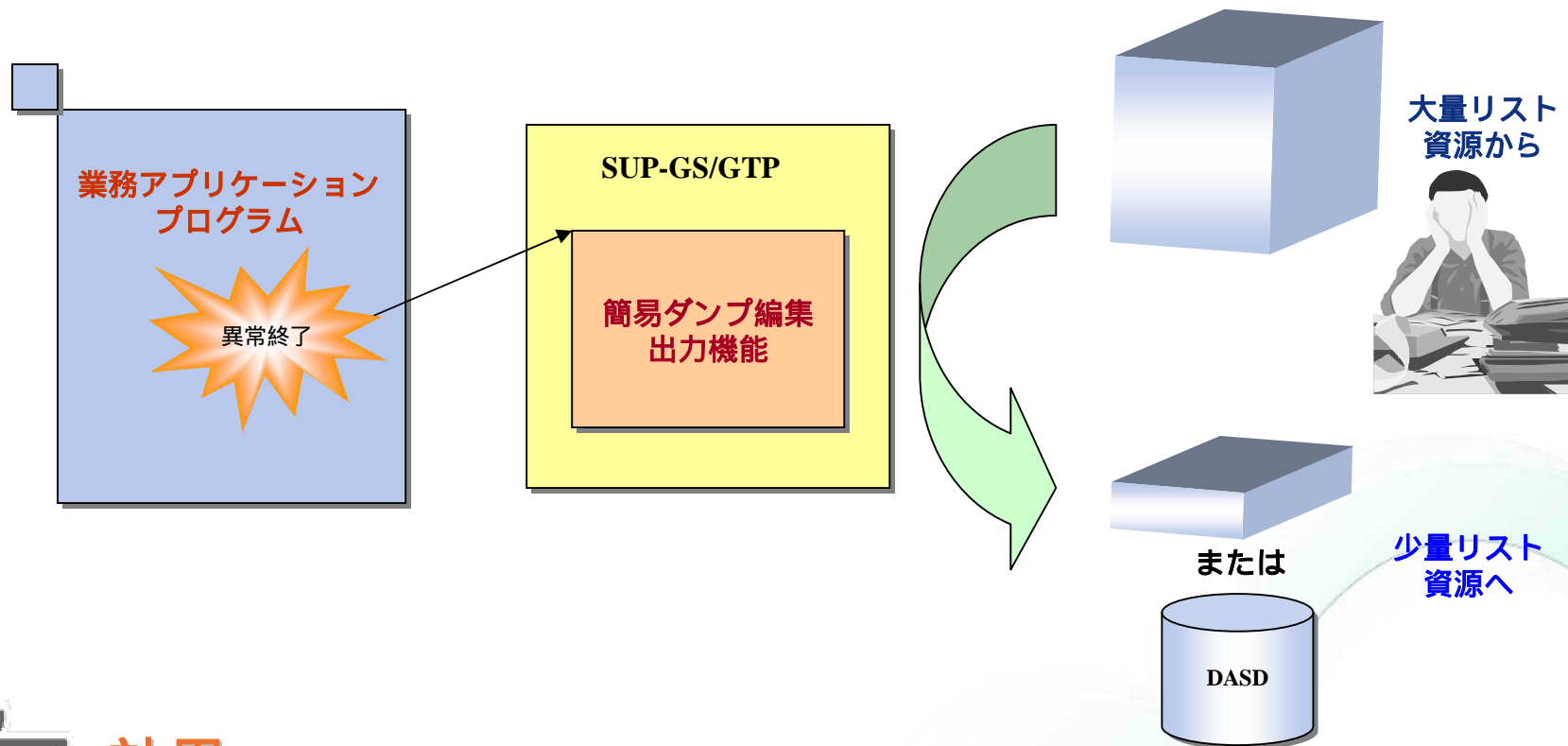


効果

- ・ ACMファイルからの読み出しメッセージを応用プログラム間通信およびCALLインタフェースで受け取ることができます。
- ・ エクステント初期化プログラムの適用により、エクステント初期化で発生した滞留メッセージを出口プログラムで受け取ることが出来ます。

8. 簡易ダンプ編集出力機能

プログラム異常終了時，障害調査に必要なダンプ情報を編集 / 出力します。
(SYSOUTまたはDASD)



効果

- 出力リスト資源の節約とダンプ出力時間の節約が出来ます。
- プログラム再起動までの時間短縮がはかれます。
- 出力ダンプの編集 / 削除が可能なためリストのムダが発生しません。(DASD出力時)

9. サービスプログラム

各種サービスプログラムは以下の通りです。業務アプリケーションから呼出しすることで各プログラムの機能をご利用いただけます。

● 各種ファイルアクセスルーチン

- ・表示ファイルアクセスルーチン
- ・順編成ファイル (PS) アクセスルーチン
- ・直接編成ファイル (DA) アクセスルーチン
- ・メッセージファイルアクセスルーチン
- ・区分編成ファイル (PO) アクセスルーチン
- ・TSAFアクセスルーチン

● タスク管理マクロインタフェースルーチン

- ・ ABENDマクロ発行ルーチン
- ・ STIMEREマクロ発行ルーチン
- ・ GENQ/GDEQマクロ発行ルーチン
- ・ WAITマクロ発行ルーチン
- ・ MODESELマクロ発行ルーチン
- ・ GETMAIN/FREEMAINマクロ発行ルーチン
- ・ POSTマクロ発行ルーチン
- ・ ENQ/DEQマクロ発行ルーチン

● 資源の動的割当てルーチン(LP/CMT/DA/SY)

● AIMマクロインタフェースルーチン

- ・ UCAマクロ発行ルーチン
- ・ AIMNOTEマクロ発行ルーチン
- ・ DCNOTEマクロ発行ルーチン

● インタナルリーダ出力ルーチン

● ハッシュ関数ルーチン

● コード変換ルーチン (EBC EUC等)

● 各種汎用ルーチン

汎用ルーチン

サービスプログラムで提供している「汎用ルーチン」についての詳細は以下の通りです。

- **S F Z C H E C K** :指定された文字列が適切な形式に則っているか検査(時刻, データセット名など)
- **S F Z C H K A N** :指定された文字列が英数字からなるか検査, 空白があれば以降空白か検査
- **S F Z E B C C K** :指定された文字列のうちEBCDICでないものをピリオドに置換え
- **S F Z P T C H K** :指定されたビットの状態(ON/OFF)を検査
- **S F Z T B C N V** :外部16数値で表示された領域のビット状態(ON/OFF)を変更
- **S F Z E B T O X** :外部16数値で表示された文字列を, 内部16進数値に変換
- **S F Z X T O E B** :内部16数値で表示された文字列を, 外部16進数値に変換
- **S F Z X E B E T** :指定された領域を外部16進表現とEBCDICコードに変換(ピリオド編集有り)
- **S F Z D M P E T** :指定された領域を外部16進表現とEBCDICコードのダンプ形式に編集
- **S F Z D U M P** :指定された領域をダンプ形式に編集し, SYSOUTに出力
- **S F Z D B L N K** :指定された文字列から空白を消去し, 圧縮(圧縮分の後ろには空白を挿入)
- **S F Z M O V E** :指定された領域から領域へ, 指定されたバイト数分を転送
- **S F Z S T G E T** :識別番号によるユーザ任意情報の管理
- **S F Z S S R C H** :指定キーによる, 連続したテーブル領域の「順検索」
- **S F Z B S R C H** :指定キーによる, 連続したテーブル領域の「2分検索」
- **S F Z P R M C T** :呼出し元プログラムが起動されたときの引数のカウント
- **S F Z S T A C K** :指定された識別子に対して与えられる2組の数の累積, 管理

10. ユーティリティプログラム

各種ユーティリティプログラムは以下の通りです。

● フォーマットライトユーティリティ



DASD上のデータセットを指定のブロック数だけ、バイナリゼロで論理フォーマットします。

● ソースライブラリ変換ユーティリティ

JCLのPARMパラメタの指定により、ソース中の有効ステートメントをコメントに、またはコメントを有効ステートメントに変換します。

● UCAダンプ/解放ユーティリティ

UCA識別子を指定しUCA領域の内容をSYSOUTに出力します。
また、UCA領域の解放を行うこともできます。



FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

